

令和7年度日高山脈襟裳十勝国立公園協議会第2回総会

議事要旨

■日時:令和7年8月5日(火)13:00~14:30

■場所:日高振興局 4F 講堂(Web 会議システム併用)

■議事概要

1. 開会

・日高山脈襟裳十勝国立公園協議会 中澤会長より挨拶

・昨年6月25日に指定された日高山脈襟裳十勝国立公園は、先日、指定1周年を迎えた。構成員の皆様には、シンポジウムやイベントの開催等によって、引き続き本国立公園を盛り上げていただいたこと、また、そうした国立公園の周知活動を通して、地域の方々や旅行者の方々に本国立公園の「我が国の風景を代表するに足る傑出した自然の風景地」としての価値・魅力を広く知っていただけたこと、本国立公園が有する自然環境の厳正な保護と適正な利用の推進に取り組んでいただいたこと、大変感謝申し上げます。

・地域の皆様にとって、日高山脈の風景は、古くから常に日々の生活の中にあり、心に根付いた原風景として、親しみを持って受け止められている、大切な存在であると思っている。日高山脈襟裳十勝国立公園最大の魅力である原生的な自然環境や、ここで育まれたアイヌの文化景観等を保全し、後世につなぎ渡していくことが、国立公園行政に求められているものと認識し、引き続き、取り組んでいく。

・本日は、日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン(案)について御審議いただく。国立公園ビジョンは、公園計画を踏まえた公園の望ましい姿、公園が提供すべきサービス、公園の価値や保全・利用の目標をわかりやすく示したもの。

・本日、日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョンを決定いただいたら、このビジョンの実現に向けて、みなさまとともに、地域の実情に即した国立公園の適正な保護及び利用の推進を図っていくこととなる。具体的には、今後、ビジョンや管理運営方針等に基づき、自然環境の保全、公園事業施設の整備及び維持管理、利用者サービスの提供等、構成員の皆様とともに実施すべき取組方策と役割分担の整理を進める。

・本国立公園を未来に引継ぎ、より良い姿にしていいため、関係者で連携して取組を進めていきましょう。

2. 議事

(1)審議事項

1)日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン(案)について

(資料 1-1、資料 1-2 について、事務局より説明)

<質疑>

(質問・意見等なし)

→事務局提示案を、「日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン」として決定する。

2)本協議会の今後の進め方について

(資料2について、事務局より説明)

<説明>、※→:事務局

→本日の総会でビジョンが決定した。今後は所定の手続きを経て公園計画の基本方針に反映させる予定。

今後、ビジョン達成に向けた管理運営方針、その方針に基づく行動計画を策定するとともに、協議会で各構成員の取組進捗を共有する。

「自然体験活動促進計画」の策定に取り組む予定の市町村があることから、環境省でも「自然体験活動計画」の検討を進めており、幹事会で意見を求める予定。

登山道部会は今年度はじめに立ち上げられ、「夏山登山の5つの心得」の普及啓発資料を各構成員で周知いただいている。引き続き周知をいただき、今後、各構成員が年度内に把握した情報を共有しつつ、部会を開催し、必要に応じて対応について協議していきたい。

他の部会についても必要に応じて設置する。

次回幹事会は 11 月頃を予定。

<質疑>

(質問・意見等なし)

(2)報告事項

1)日高山脈襟裳十勝国立公園協議会規約(別添2)の変更について

(報告資料1 について、事務局より説明)

2)令和 6 年度の各構成員の取組報告について

(報告資料2について、事務局より説明。)

3)令和 7 年度の各構成員の取組報告・予定について

(報告資料3について、事務局より説明。)

4)その他各構成員からの情報提供

(報告資料 4(1)、(2)、(3)について、各構成員から説明)

3. その他

- ・決定したビジョンが国立公園の保護と利用の方針として関係者や利用者に共有され、登山道部会では、安全な登山環境づくりが議論されることを期待する。微力ながら協力していく(愛甲教授)。
- ・管轄する国有林野の多くが国立公園の区域に含まれている。本協議会を通じて、本国立公園の保護と利用の両立、地域振興、地域住民の福祉の向上に、国有林としてどのように寄与できるか課題意識を持ちながら、今後も関係者と協働・連携により取組を進めていきたい(日高北部森林管理署長)。
- ・管轄内の5町と連携を強化し、関係団体と協力しながら地域振興に努める(日高南部森林管理署長)。
- ・関係機関又は団体と連携・協働し、地域貢献を図る(十勝西部森林管理署長)。
- ・道路、河川等のインフラ整備を担当し、国立公園関連の許認可手続きに協力してきた。今後も環境保全と地域活性化に資する活動に連携して参加する(北海道開発局開発専門官)。
- ・令和7年度は「日高山脈襟裳十勝国立公園における『来訪者が環境保全に貢献する仕組み』の構築に向けた検証事業」を実施する。日高地域において、ロングトレイル活用可能性調査、認知度向上を目的とした地域住民向けセミナー、体験プログラムを通じた環境保全に貢献する参加型プログラム、持続可能な形で維持するためのトレイル運営体制を検討する(北海道運輸局観光部長)。
- ・国立公園化を起爆剤とし、地域の魅力向上と活性化に繋げるため、機運醸成、プロモーション、受入環境整備と保護を3つの柱として重点的に取組を実施している。公園ビジョンの決定を受け、引き続き本庁関係部課、日高・十勝両振興局と連携しながら、魅力向上のための取組を進めていく(北海道自然公園担当課長)。
- ・国立公園指定1周年の6月25日に、自然保護官を呼んで記念イベントを実施した。今後も皆さんと連携して様々な取組を進める(日高振興局長)。
- ・ルール・マナーの順守、オーバーユース対策、幅広いニーズやレベルに応じた利用ができるような取組が重要になってくる。引き続き皆さんと連携して取組を進める。また、広域的な利用による十勝地域全体の活性化に尽力する(十勝総合振興局長)。
- ・十勝の各市町村をはじめとする関係機関・団体と連携して取り組んでいる。今後も、ビジョン実現のために、環境保全の取組や自然体験プログラム、広域ツアー造成など、多面的な取組を進める(帯広市長)。
- ・13の関係市町村にまたがるので、全体で連携した取組だけでなく、一部の市町村間でもよいので、様々な広域的な取組を進めていければと考える(日高町長)。
- ・ビジョンのポイントとして、アイヌの世界観や文化景観の価値の維持が挙げられているため、本町にある資料や遺産を大いに活用していきたい(平取町長)。
- ・町内にある山小屋について、今後どのように管理し、運営していくのか、関係者と調

整し、体制の整理に取り組みたい。自然環境の保全と利用の両側面から、皆さんと連携しながら取組を進める(新冠町長)。

・山小屋や公園周辺にあるキャンプ場の整備に取り組んでいる。また、町のフィールドを活用したワークショップも計画中。地域間の協力によるインバウンド誘客に努める(浦河町長)。

・高山植物の宝庫であるアポイ岳では、保全活動が継続的に行われており、それらの活動を支援する目的でふるさと納税を活用した寄付金制度を設けている。引き続き関係者と連携・協働し、保護と利用の取組を進める(様似町副町長)。

・豊似湖周辺の希少な動植物の保護について、大きな課題がある。どういう対応ができるか、自然保護官含め関係者と検討をしていきたい(えりも町長)。

・町から国立公園に直接アクセスすることができない現状があり、できることが限られているが、地元の山岳会やボランティアにより、ペテガリ岳の登山道等の整備をいただいていることは大変有り難い。引き続き町として何ができるか知恵を絞りたい(新ひだか町長)。

・本国立公園を、環境保全と観光振興の両面から積極的に活用し、地域活性化へつなげていきたい。特に、国立公園の玄関口として重要な役割を担っているため、景観資源を活用した施設整備や環境整備を強化していきたい(清水町長)。

・ビジョン達成に向けて、十勝・日高山脈観光連携協議会(芽室町事務局)の事業を引き続き推進する。国有林道が未復旧で登山道へのアクセスが困難なため、早期復旧・開通をお願いしたい(芽室町副町長)。

・日高山脈山岳センターに登山知識・経験のある日高山脈専門員2名を配置し、登山情報の発信や携帯トイレの普及に取り組んでいる。また、7月には熊出没対応訓練を実施した(中札内村長)。

・展望デッキの整備や町民登山会の開催を通して、日高山脈を見る・知る・感じる取組を進めていきたい。また、本町を流れる歴舟川は日高山脈を源とする。この川を通して、山脈の雄大さ、大切さなどを多くの人に伝えていきたい(大樹町 副町長)。

・町内にある大丸山に展望台の整備を進めており、9月から解放予定。多くの方に足を運んでいただき、日高山脈の眺望を楽しんでもらいたい。今後も、あらゆる機会を通じて、身近な自然環境の理解促進に努めていきたい(広尾町 副町長)。

・日高山脈での安全な登山の実現のため、パトロール登山や遭難救助訓練を実施している。山岳会員の高齢化が進む中で、ペテガリ岳ではボランティアを募っての登山道整備登山を行っている。今後、他の山でも同様な整備登山ができればと思っている(日高山岳連盟会長)。

・高山植物を守るために登山道整備に注力してきた。今年は高山植物のそばを走るトレイルランの人々を問題視している。この秋に開催される高山植物の保全関係の集まりで話題提供し、他の地域での対策等意見交換したい(アポイ岳ファンクラブ会長)。

- ・国内陸域最大の国立公園であることから、環境省の現地事務所の増設など管理体制の強化を望む。また、ビジョン案のパブコメの中にもあったが、本国立公園の管理に自然科学者が恒常的に参画できるようにするべきではないか。協議会での活発な議論を求む(十勝自然保護協会事務局長)。
- ・環境省の VR 機器も活用したプロモーションを今後積極的に展開していきたい。プロモーション活動においては、特に日高山脈の雄大さを前面に押し出し、誘客につなげていきたい(十勝観光連盟 専務理事)。
- ・今年度は、日高管内のドライブマップについて、本国立公園の情報を追記し更新する予定。国内外からの観光客に対応できるようなガイドの育成、標識等の多言語化に取り組んでいきたい(日高管内観光連盟会長)。
- ・日高山脈の自然環境、景観を全国の人に知っていただけると非常に良いと思う。ただし、日高山脈での事故発生や利用過多による荒廃について心配があるところ。今後も皆さんと協力しながら、美しい山脈を残していきたい(十勝山岳連盟会長)。
- ・本日決定したビジョン実現に向け、今後皆さんとともに地域の実情に即した国立公園の保護と適正な利用の周知を図りたい。また、本日の報告、意見を踏まえて、取組を進めていきたい(北海道地方環境事務所長)。

4. 閉会